

## 「越後の凧合戦」

みなさんは凧揚げといういつの季節を思い浮かべるでしょうか。

全国的にはお正月とを感じる人が多いと思いますが、正月の他にも端午の節句に凧を揚げる風習が日本各地にあります。ここ新潟県では、旧暦の節句に合わせて毎年6月の第1日曜日を中心に、大きな凧揚げの大会「凧合戦」が県内3地域で開催されています。

それぞれに300年以上の歴史があり、30kmも離れていない地域で開催されているにもかかわらず、それぞれ特徴のある合戦方法を保っていることなどから、平成27年3月に、3地域一括して「越後の凧合戦習俗」として新潟県無形民俗文化財に指定されました。

### ●今町中之島大凧合戦

3地域の中で一番南であり、信濃川の支流、刈谷田川の刈谷田川大堰から約1km下流の両岸において、見附市今町と長岡市中之島の間で合戦が行われます。

凧は六角形で縦4.3m、横3.2m、約8畳分の広さ。空中戦で相手の凧とたこ糸をからめ合いそのまま綱引きをして相手のたこ糸を切った方が勝ちとなります。



会場入り口の道の駅の実物看板



優雅に舞う六角凧



相手の糸を切るまで綱引きが続きます

### ●三条凧合戦

三条市は六角凧の発祥の地であり、「Sanjo Rokkaku」が六角凧の英名として全世界に知れ渡っているとのこと。凧合戦は「たこ」ではなく「いかがっせん」という古い言い回しを残しています。

凧合戦は刈谷田川右岸排水機場から約1km下流の信濃川と五十嵐川の合流地点、信濃川河川敷に隣接した防災広場にて行われます。



高く低く相手をうかがう六角凧



赤組に襲いかかる白組の凧



2 畳から 3 畳半の大きさの六角凧が赤組と白組に別れて空中戦を行い、敵組の凧の糸を切るか、からめて落とすかすると、難易度に応じて勝者に得点が与えられ総合点で優勝を競います。

三条凧合戦は、他地域と比べて凧が小さい分、激しく上下に移動する機動性に富んだ合戦となります。

## ●白根大凧合戦

3 地域の中で一番北、信濃川の分流、中ノ口川の萱場排水機場と中部排水機場のほぼ中間の両岸において、新潟市南区の白根と味方(西白根)の間で合戦が行われます。

メインの大凧は四角形で縦 7m、横 5m、24 畳分の大きさ。5 畳大の六角凧も数多く揚がります。

勝負は、低く揚げた白根側の大凧に、味方側が大凧を上空から交差するように川に落として凧網を絡ませるまでが準備で、そこで始まる両岸からの綱引きが本番です。相手の凧網を切った方が勝ちですが綱は直径 25 mmの麻縄でなかなか切れるものではなく、観客も参加しての引き合いとなります。



数多く揚がる六角凧



浮かぶ大凧



力が入る綱引き



展示用の大凧

いくつかある凧合戦の由来話の中には「子供の凧のトラブルに大人が乗り出し互いに後にひけなくなった」という大人げない説話がある一方で、堤防の地固めのために始めた行事が定着したという実目的があったとも伝承されています。

歴史や産業と深く関わり合いながら受け継がれてきた凧合戦ですが、梅雨前の堤防の地固めや草刈りなどの管理を、田植えなどの農作業がひと段落ついた端午の節句の娯楽として実施しようという、先人たちの知恵がそこにはあったのかもしれませんが。